

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 9 号

平成 2 1 年 1 2 月 1 日
愛 知 県

1 野菜

ナス、キュウリでは、ミナミキイロアザミウマの発生が県内各地で多い状況となっています。本虫は、キュウリ黄化えそ病の原因となるウイルス（MYSV）を媒介するので、的確に防除しましょう。また、黄化えそ病発病株は早めに抜き取り適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生は、やや多い状況です。発病株は見つけ次第、直ちに抜き取り適切に処分しましょう。トマト黄化葉巻病を媒介するコナジラミ類の発生も多くなっています。低密度でもウイルスを媒介しますので、発生を確認したら、防除に努めましょう。トマト葉かび病の発生が一部ほ場で多い状況です。草勢が低下すると発生が多くなりますので、肥培管理に注意しましょう。また、多湿条件下で多発しますので、換気を十分に行い、過湿にならないよう注意しましょう。なお、農薬は葉裏にかかるようにていねいに散布しましょう。

施設野菜の灰色かび病は、例年気温が低下するこの時期から発生が多くなりますので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の稼働温度を低く設定している場合は、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

イチゴでは、うどんこ病の発生が多い状況が続いています。ほ場での発生に注意し、発生初期に防除するようにしましょう。また、ハダニ類の発生が多くなってきました。今後天敵を導入するほ場では、導入前に防除しましょう。天敵を導入しているほ場は、天敵への影響に注意して農薬を選定しましょう。

キャベツ菌核病の発生が見られるほ場があります。発病株は次作以降の伝染源となるので、早めに抜き取り、ほ場に残さないようにしましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ キャベツ	コナガ	やや少ない	全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数はやや少ない	± -
キャベツ	菌核病	やや少ない	全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の降水量は平年並	- ±
トマト(施設)	葉かび病	平年並	全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並	± ±
	黄化葉巻病	やや多い	全域	11月下旬の発生量はやや多い	+
	コナジラミ類	やや多い	全域	黄色粘着トラップにおける誘 殺数はやや多い	+
ナス(施設) キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	多い	全域	11月下旬の発生量が多い 青色粘着トラップにおける誘 殺数は平年並	+ ±
イチゴ(施設)	灰色かび病	平年並	全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	全域	11月下旬の発生量はやや多い 12月の日照時間は平年並	+ ±
	ハダニ類	やや多い	全域	11月下旬の発生量はやや多い	+

・防除対策

〔トマト(施設)トマト黄化葉巻病、コナジラミ類〕

発病株は直ちに抜き取り処分しましょう。コナジラミ類は発生を確認したら、ベストガード水溶剤、スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

〔ナス(施設)、キュウリ(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤、ハチハチ乳剤などで防除しましょう。

〔イチゴ(施設)うどんこ病〕

発病した果実や不要な果柄は見つけ次第つま取り、ほ場から持ち出して適切に処分しましょう。発病を確認したほ場ではパンチョTF顆粒水和剤やスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。また、硫黄粒剤(くん煙)などを用いて予防に努めましょう。

〔イチゴ(施設)・ハダニ類〕

ハダニ類の発生が多い場合は、天敵を放飼する前に防除を行いましょ。すでに天敵を放飼している場合は、天敵に影響の少ないマイトコーネフロアブルやニッソラン水和剤などで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台 11月27日発表)

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。岐阜県山間部では、平年に比べ雪の日が少ないでしょう。

向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は高い確率50%、2週目は平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 40% 高い : 40%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう(11月28日~12月25日の晴れ日数の平年値は約19日)。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。